

土木資材を取扱つて

佛 子 果

光輝ある連勝緒戦の一年を送り、又一年を迎へるに當り、日常取扱つて居ります土木資材の見地から今日迄に經驗したこと感じたことを皆様に申上げるのも強ち徒爾ではないと存じまして、乍非才年初に所懐を述べさせて頂きたいと存じます。

昭和十二年七月、日支事變勃發致しました當時は、吾々一様だつたと思ひますが、何んだチャンコロが、朝飯前だ、位に考へて即決樂観者が多數だつたと存じます。然るに蔣介石は地域の廣大を唯一の武器として、米英に依存して今日尙餘喘を保つて居るのみか、敵性を益々鞏固にして、東亞民族の東亞再建に耳を藉さず邪隨をして居るのは誠に残念であります。支那事變は斯く續行中でありますのに、昭和十六年十二月八日大東亞戰爭に突入したのでありますから、急激に國內臨戰體制の整備を要するに至つたことは理の當然で御座ります。物資に於きましても、支那事變開始

後輸出入品等に關する臨時措置に關する法律が施行されて、鐵類の使用制限、石油類の消費規制等等、戰爭遂行上必要なる凡ゆる物資の消費が規制されました。當時國民の一般は支那と戦つて居て斯んな事では困ると云ふ、不平が多かつたのであります。事實當時は吾々事業資材を取扱つて居る者でさへ之では現場で仕事が出来ぬ、豫算の消化が出来兼ねると云つて資材の入手獲得に憂き身を襲して狂奔したのであります。今日から考へると赤面の至りではあります。當時としては日本が支那だけを對手にして、事變として片付け様とする氣配に多少氣を樂に、所謂緊張が足りなかつたのであります。然るに吾國を取巻く四圍の情況は、刻々に惡化してA、B、C、D包圍陣等と、途方も無い惡辣な手段を以て、吾國を壓迫して來た事は、皆様御承知の通りであります。之に伴つて物資も一段と窮屈になつて參りました。石油はアメリカから來ない、關印も其の尻馬に乗り、吾國を馬鹿にして品物を

寄越さない、そうこうする中に、アメリカは自己の金力、武力に眩惑されて人を人と思はぬ唯我獨尊主義から衷心和平を希求する吾國に對し、國の存立を危ぶくせしむる傲岸不遜、其の非禮天下に類なき要求を敢てなし、口頭和平、裏面鈍慾の形相を露呈せるを以て、一昨年十二月八日大東亞戰爭の大詔が渙發せられまして、一億國民が覺悟を新に致したのであります。斯の如く支那事變完結體制より、大東亞戰爭完勝體制に急進したのであります。事變完結より戰爭必勝へと、國運を賭しての一大躍進をした以上何も彼もが大變革を來し、戰爭目的遂行に統制せられますのは當然であります。

○ 往時の戰爭は概ね局地戰爭即ち日清、日露兩役の如く限られたる地方に於ての戰爭は、即戰即決も亦可能でありましたでせうが、今次東亞大戰の如く戰爭地域が廣大無邊なる時は、彼我共に其の心臟部に匕首を擬することが困難では無いかと思はれます。従つて重慶の如く又ソビエトの如く、米英對手の戰爭も亦長期戰とならざるを得ないと存じます。終結を告げるのは何うしても二、三十年先きになるのでは無いかと思はれます。緒戦に於きまして陸海軍の力で大捷を博しA、B、C、D第一線陣地を粉碎することが出来ました。皇軍の赫々たる戦果で南方圍を解放することが出来ました。でもA、B、C、D陣營は依然としてあるこ

とを考へるべきだと考へねばならぬと存じます。何故ならば敵米英は南方前衛基地即ち第一線の皆から本來の防禦攻撃陣地に後退したに止まるからであります。喰ふか喰はれるかの本格的戰爭は眞に之からだと思ひます。

○ 前述せる如く事變完結より戰爭完勝へと一大躍進したのでありますから、國內各般の臨戰體制も急進整備が喫緊事であることは勿論であります。然るに此の當然爲さるべき戰爭目的完遂へ各種統制が跛行的である、即ち物の面にのみ集中せられて居る嫌心が多分にあると存じます。國家が戰爭目的完遂の爲にする臨戰體制の整備は物心兩面から爲すべきだと存じます。然るに目下のところを見まするに消費物資の敷的規制のみを強化して居る様に見受けられます。其れも臨戰體制組織構成の統制準備中に戰爭に入つたので、生産消費の完全なる見透しの困難即ち生産消費を理想的にマッチせしむることを得ず不取敢消耗部面の規制を實施されました。其處で今日でも生産消費の完全なる統制がまだ出来ませぬと同時に思想的方面に於ける統制が爲されて居りませぬので、從て消費者は戰爭には勝たねばならぬと云ひ乍ら、物資に付いては自由主義時代の思想を其の儘に自己の仕事を本意とした物資の爭奪隱蔽に餘念が無い、之は全部が全部とは云へませんが、至極根強いのであります。斯と云ふ點が日本人として誠に遺憾の點で

あります。故に人々の頭から戦争第一主義に變へて行かねば何時迄経つても事變の時と戦争に這入つてからと、内面的思想には變りが無いと思はれます。此の先代の殘滓的自由思想を統制して臨戰體制思想にリードして行かなければ最終戦争目的完遂は六ヶ敷しいのでは無いかと思はれます。其れには形式的行事を廢すること、一例を挙げますれば官吏でも經濟人でも一般國民でも、男は必らず銃劍を採つて直ちに第一線に行く、女子は銃後で立派に男のやつて居た仕事を肩代りして爲し遂げて見せる否、爲し遂げると云ふ態の終始國家を念頭に置いて職域奉公せしむる即ち自分であつて、自分の身心で無い。自分は國家以外に無いと云ふ信念を持たせる思想の統制が急務では無いでせうか、此の思想の統制も公平に行はなければ効果よりも逆効果を生む事になります。

卓近な例を取つて見ましても左様です。岸商工大臣が力齋を入れて居られる各種の統制會でありますが、生産の強化、需給の調整等各種行政事務の大部分を統制會をして強行せしめ、行政簡素化、臨戰體制を實踐して行く爲に、統制會を簇出させました統制會の理念は誠に結構なのであります。其の運用の點に於て遺憾の點渺しとせぬ嫌が多々見受けられるのは残念です。即ち統制會が此の非常時に其の機能を眞に發揮して政府の行政簡素化を一層強化して呉れるのならば文句もありませんが、只今のところでは商工、農林等事業官廳と所謂業者との中間に仲介業の様に存在し

て却つて實務を複雑化して居る需給の方法でも何んでも結局は監督官廳で作製したものに依つて統制會が動いて居るので自主的に統制會が働いて居ない。然るに統制會の役員は其の受くる所に於て七、五、三役などと世間より羨望されて居ます。今云ふ通り眞の實務は官廳の受くる所薄き當務者がやつて終つて統制會は唯取次役をして居るに過ぎないのが多いので、當路の官吏は官吏をして居るのが馬鹿らしくなり、統制會又は民間入を希望する者が多くなる爲に官吏の素質が低下すると云ふことになり、統制會傘下の業者は統制會の費用負擔はして居るが、統制會の厄介になつて居らぬと云ふ譯で不平が起ると云ふ具合ですから、斯ふ云ふ點をもよく考慮して、思想の統制は公正に強力に實施されるべきものと存じます。衣食足つて禮節を知るは平時たると戰時たるとを問はず眞理ではないかと思ひます。

○

戦争目的完遂に當り官吏は他に率先して時局認識を徹底しなければなりません。今迄は官吏も職域奉公とは自己に與へられたところの仕事を完全に立派に仕上げることが御奉公と考へ一生懸命、仕事に努力されたことゝ存じます。然し今日は國運を賭しての戦争中であります。従前の様に豫算獲得を以て能事終れりとすることは嚴に戒しめねばなりませんし、又左様な事は今後絶対に出来ません。戦争は物の戦であります。沉んや長期戦に於て

をやであります。然し今迄は折角貰つた豫算は消化して終ひたいから何とか其工事に必要な資材を配給して貰ひ度いと、唯單に事業の完遂を目的とした要望が非常に多かつたのであります。創意工夫とは何う云ふ事でありませうか、申す迄も無く、今日の如き物資窮迫の秋、大切な資材勢力を極度に節約致しまして工事は聊かも遜色なき仕事を爲しとげるのが總力戦の一環たる銃後國民の眞の務めではないでせうか。其を簡便に使用に易き資材の利用に慣れたる情勢を捨て難く、執着強く物の不足を嘆くは弱者と同一であります。戦争の何たるかを理解して居らない結果と存じます。中央に於て資材の需給事務を執る者も今迄は自己の職掌柄物を一砲、半砲餘分に確保し配給するを自己の生命として又誇りを以て活躍して居た向が多分にありました。然し今日に於ては其は非常なる謬見であります。過去の様に物が窮屈になつたとは云へ多少融通の利く時は、其でも良かったでせうが、戦時下の今日では最早其は許されません。一億國民が戦争目的完遂の爲には物が不自由になり不足して來るのは當然であります。其を物が無くして困ると云ふことを口にして、何々が不足して工事が完成出來ぬ等と云ふ事は間違つて居ます。戦争中は間違つても物が不足して困る等の言葉を口外すべきでは無いと思ひます。唯吾々は戦争に勝たねばならぬ、其の爲には凡ゆる犠牲を堪へ忍んでこそ目的を達することが出来るのだと思ひます。従て此の戦争完遂の爲には

非共爲さねばならぬ事業國家に於ても、地方公共團體に於ても即ち戦争完遂に最も重要な軍需に關する工國內生産力擴充上必要たる工事輸送力増強上必要たる工事等、以上國家的見地より見て最も重要なもののみを重點的に優先せしめ餘りなき資材勢力を集中して工事の完成を一刻も速かならしめ效果あらしめるのが吾々土木人の職域奉公の誠であると固く信ずるのであります。

戦争も三年目でありますが、滿二年目に這入るのであります。第三次ソロモン海戦では尊い戦艦を失つたのであります。土木工事に不可欠なる鐵鋼、セメント、石油類等も戦争目的遂行の爲今後愈々増産せらるゝとしても、土木事業用として配當せらるゝものは益々逼迫の度を加重するものと存じます。然し吾々は戦争完遂と云ふ信念を愈々強く固め創意工夫を活かし他に率先して土木工事中、主要資材たる鐵鋼の使用を極度に節約し以て衷一建主義を以て軍艦建設に要する資材として配當量中の一少部分にても政府に返納する舉に出たならば、思想の統一は美事無言の中に戦争目的完遂へ統制されて來ることと存じます。國家多事たる此の秋直接間接戦争遂行上必要なる施設整備部面を擔當する吾々土木人が戦争目的遂行思想統制のリトダーとして其の基礎を打建てるこそ本懐ではないかと存じます。

終りに臨みまして資材を取扱つて居ります者の衷情の一片を工事遂行上御參酌下されば幸甚此の上もありません。